



ゆうメール

「ふるさと越後の家づくり事業」

新潟県が行っている『ふるさと越後の家づくり事業』、平成 29 年度も実施されることとなりました。

この事業は、お家の新築や改築などの際に一定量の【越後杉ブランド認証材】を使用することで県からの補助金を受けられるという制度です。

ノモトホームズでは主に構造材として越後杉を使用しており、当社で建築されるお客様にはこの制度を活用いただいています。

産地や品質が明確な県産材を使用することにより、安心・安全な住宅建築の普及を促し、更には地産地建という観点から、新潟県内の林業の保全や活性化に役立つことを目指しています。

当社では、イベントとして実際の伐採現場を皆様にご覧いただくバスツアーも行っています。

実はノモトホームズでは新潟県がこの事業を始める前から、越後杉を使って家づくりをしています。もともと自信を持ってお勧めしている材料ですが、新潟県の制度がさらなる後押しとなって、皆様にご紹介できるようになったという事実です。

昨年からは畳などの項目も補助金支給の対象として追加されました。ある一定の基準をクリアすることが求められるこの制度、これまでノモトホームズが続けてきたこだわりが一部形になったと感じています。

長い時間を過ごす住まい、快適な環境にしたいという思いは誰にでもあるはず。構造などは外からは見えない部分ではありますが、基本の材料からこだわってみるというのも家づくりを考える上でひとつのポイントになるのではないのでしょうか。（総務部 森田）



地域主義建築家連合

今年、入会から13年目を迎える「チルチンぴと」地域主義工務店の会。

その趣旨は、木の家づくりを通し、地域に根ざした住文化の新たな創造と、貢献を目的としたものです。

今や、全国56社に上る組織となりました。

入会以前には、素材や施工技術には相応の自信を持っていたものの、設計力と言った点では今一つと言った感が拭いきれずに居り、そんな折に出会ったのが、工務店の会であり、建築家泉先生であり、伊藤さんでした。

始まりは、その地域に根ざした街並みをつくる事。

高度成長期から始まった、表情に乏しい二次製品で建てられた規格住宅ではなく、その街並みに溶け込む家をつくれるか、風景をつくれるか、工務店における設計力のレベルアップの為、設計顧問としてご支援を頂くことになりました。

入会当初から早13年、会の中でも先駆けての建築家とのコラボは、近年では珍しくなくなりましたが、当時弊社が会の中でも初めての試みだったように記憶して居ります。

そんな地域主義工務店の中、この度伊藤さんを筆頭とした「地域主義建築家連合」が、建主と全国の工務店の会と共に美しく心地よい住宅を、そして良質な美しい街並みを構築する為、設立されました。

以前、伊藤さんは仰っていました、「例えるなら、大きな病院の医者ではなく、自分は町医者でありたい」と。(営業部 佐藤)



「箸」

ご承知の通り、ノモトホームズの家造りでは多くの材木を使用し、そのすべてが国産材(可能な部分は県産材)であります。

今更何を？と思われるところかと思いますが、そんな仕事に携わっているからこそ気にしていることが割り箸です。



日本は国土の約3分の2が森林ですが、有名産地のように手入れされている山がどれほどあるのだろうか。

一般的な割り箸は中国産などの輸入材、あるいは竹製がほとんどのように思います。

個人的には多少割高ですが、国産の間伐材などが使用されているものがあればなお選ぶようにしています。

微々たるものかもしれませんが、少しでも国内林業発展にとの思いです。現時点、品物にも依りますが輸入材の方が安価で安定して出回っています。しかしいずれは山の手入れも進み、国産座が安定して流通することを願っており、また、森林大国である日本はそうであるべきと思っております。

(建築部 上村)

